



## 果樹園へのカメムシ類の飛来に、十分注意が必要です。

### ナシヒメシクイ第四世代幼虫の適期防除に努めてください。

#### 1. 果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシなど）

病害虫発生予報8月号（県病害虫防除所）によると、7月下旬現在、ナシ園における果樹カメムシ類の被害果率（本年0.42%、平年0.09%）、発生地点率（本年25%、平年7%）は、ともに平年より高く、4月から7月第4半旬までの予察等への総誘殺数が、かすみがうら市で平年並～やや多い状況から**8月の発生量は多いと予測**しています。

このため、ナシ、カキ、ブドウ、リンゴなどの果樹園では、園内を注意深く観察してカメムシの侵入を確認したら、下記を参考に薬剤防除に努めてください。

なお、カメムシの活動は夜温が高いと活発となるため、その翌朝に園内を観察し、飛来を確認したら活動が鈍い早朝（又は飛来の多い夕刻）に薬剤散布を行ってください。防除薬剤は、**収穫前日数（有袋や無袋で異なる場合があります）に注意**して選択し、系統の異なる薬剤でローテーション散布してください。また、散布に際しては園の周囲に飛散（ドリフト）しないよう十分な注意が必要です。

表1 果樹カメムシ類の主な防除薬剤（令和4年8月4日現在）

薬剤名	ナシ	カキ	ブドウ	リンゴ	分類
テルスターフロアブル	○	○		○	3A
ロディー水和剤	○	○		○	
スカウトフロアブル	○	○		○	
MR. ジョーカー水和剤	○	○		○	
スタークル顆粒水溶剤	○	○	○	○	4A
アクタラ顆粒水溶剤	○	○		○	
ダントツ水溶剤	○	○	○	○	
バリアード顆粒水和剤	○			○	
スミチオン水和剤40	○	○		○	1B
キラップフロアブル		○		○	2B

注）ブドウでは、果粉溶脱の恐れがありますので、薬剤使用上の注意事項などを必ず確認してください。

#### 2. ナシのナシヒメシクイ（第四世代幼虫）

ナシヒメシクイは年間3～4世代を繰り返し、ナシでは7～9月の密度が最も高くなります。

病害虫発生予報8月号によると、7月下旬現在、調査圃場のナシ果実において、県南地域の一部圃場で被害果を認めており、4月から7月中旬までのフェロモントラップへの総誘殺数が、かすみがうら市で平年より多く、笠間市、小美玉市で平年よりやや多く、土浦市、筑西市で平年並となっていることから、**8月の発生量はやや多いと予測**しています。

なお、第三世代成虫の誘殺数最盛期の予測から、**第四世代幼虫の予測防除適期は8月中旬頃**とされていますので、「赤ナシ無袋栽培病害虫参考防除例」を参考に、確実に薬剤防除を実施してください。

ナシヒメシクイの被害果を見つけたら園内に放置せず、速やかに圧殺や蒸し殺し、土中深く埋めるなど適切な処分を行って、次世代成虫の発生を防いでください。ナシ幸水で被害が認められた場合は、豊水や新高など中生～晩生品種で被害が多くなる傾向がありますので注意が必要です。

薬剤防除にあたっては下記を参考に、ナシの収穫前日数に十分注意して丁寧に散布してください。

表2 ナシのシクイムシ類（ナシヒメシクイなど）の主な防除薬剤（令和4年8月4日現在）

薬剤名	希釈倍率	使用時期 / 使用回数	分類	参考防除例に記載
ロディー水和剤	1,000～1,500倍	収穫前日まで/2回以内	3A	8月中旬
スカウトフロアブル	2,000倍	収穫前日まで/5回以内	3A	8月上旬
ディアナWDG	5,000～10,000倍	収穫前日まで/2回以内	5	7月下旬
MR. ジョーカー水和剤	2,000倍	収穫14日前まで/2回以内	3A	7月中旬
エクシレルSE	2,500～5,000倍	収穫前日まで/3回以内	28	6月下旬
オリオン水和剤40	1,000倍	収穫3日前まで/2回以内	1A	6月中旬
バリアード顆粒水和剤	2,000～4,000倍	収穫前日まで/3回以内	4A	6月上旬
アディオン乳剤	2,000～3,000倍	収穫前日まで/2回以内	3A	(注意事項)

注）分類欄には、IRACコードを記載しました。同一分類（コード）は作用点が同じなので、連用は避けてください。

■ 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

■ 営農 NEWS は JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。